

# 「盲ろう者における ICT 利用の 実態と今後の課題」

大河内 直之

## <盲ろう者の ICT利用状況>

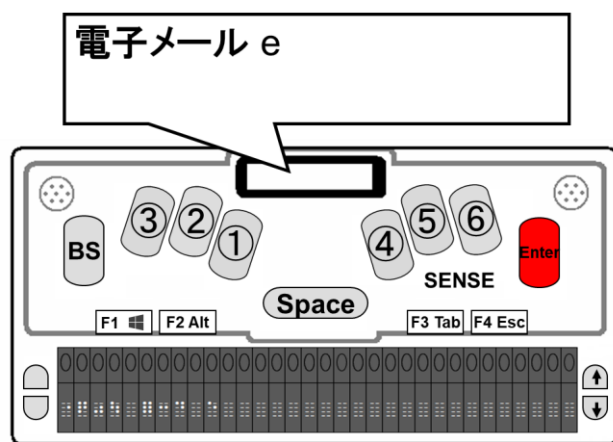
- 盲ろうの状態ではテレビ、ラジオ、電話、ファックス、新聞等一般的な情報入手手段がほとんど利用できない
- その中でパソコンと点字ディスプレイは全盲ろう者が自力で利用できる数少ない手段
- 電子メールにて他者との意思疎通や遠隔地への連絡が自力で可能
- 近年はホームページやソーシャルネットワーキング等からの情報入手も少しずつ実現
- パソコン以外に点字情報端末(ブレイルセンス、ブレイルメモ)の利用も広がっている
- 弱視ろう、弱視難聴の人には iPad 等も活用される
- 残存する聴力を活用して視覚障害者向けの音声機器を利用する盲ろう者もいる

## <盲ろう者を取り巻く ICT 環境の現状>

- 20年ほど前より、盲ろう者向け支援機器の研究・開発が行われている
- しかし、現状盲ろう者向けに製品化された機器・ソフトウェアは存在しない
- ニーズが多様であること、ユーザが少数であること等が主な要因
- 視覚障害者向けあるいは聴覚障害者向けの一部の機能を利用しているのが実情

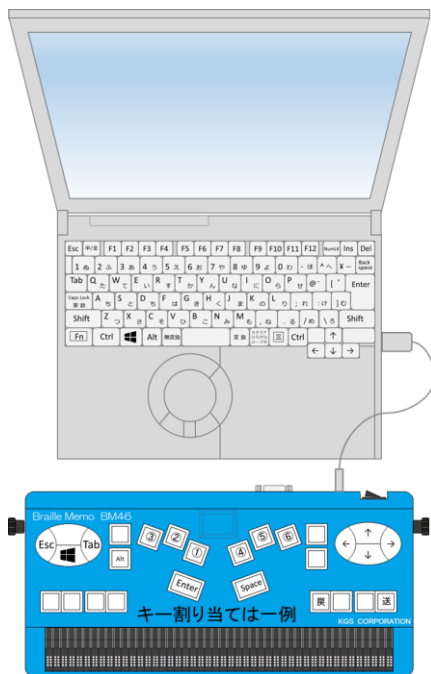
# <盲ろう者が利用する主な支援機器>

- 点字情報端末・点字ディスプレイ
- スクリーンリーダー（画面音声化・点字化ソフト）
- 触読式腕時計
- 振動式腕時計

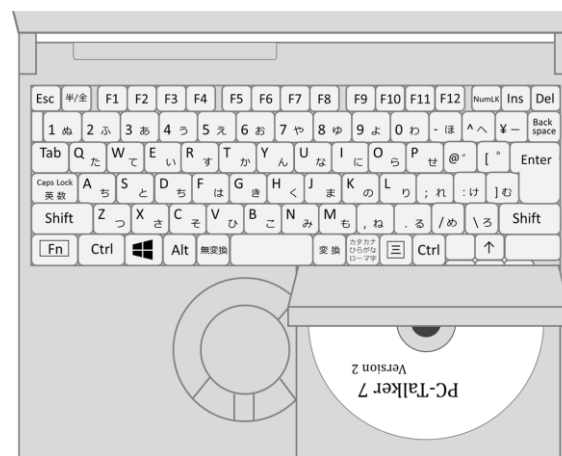


濁てんし めーる e

点字情報端末  
ブレイルセンスプラス



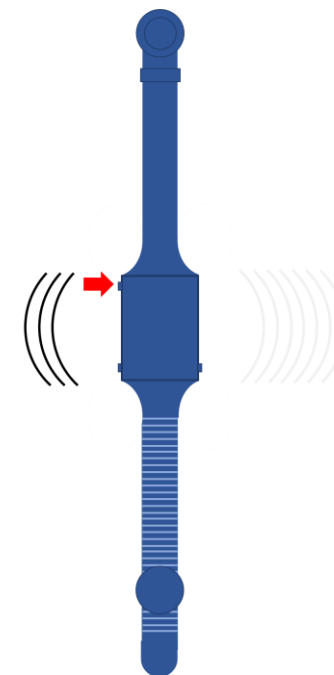
点字ディスプレイ  
ブレイルメモ46



スクリーンリーダー  
PC-Talker



触読式腕時計



振動式腕時計  
Tac-Touch

## <盲ろう者がアクセスできない主な機器・サービス>

- 体温計や血圧計等のヘルスケア製品
- お風呂リモコン等水周り機器
- スマートフォン並びにそのアプリ
- 金融機関のATM
- その他公共の場に設置されている券売機等

## <今後の課題>

- 触覚で利用できるインタフェースの充実
  - 視・聴覚機能の充実に伴い触覚のみで利用できるインタフェースが減っている
- 点字以外での文字情報へのアクセスの確立
  - 現状文字情報にアクセスできるのは点字が触読できる盲ろう者に限られる
- 自動運転等技術による移動支援の模索
  - 盲ろう者の移動の不便を解消できる可能性が高い
- AI等技術による通訳やコミュニケーションの支援の模索
  - 人材的・経済的限界がある人的支援を、今後補える可能性がある